

# SYMPOSIUM

# 「やまがた × 幸せ」シンポジウム

山形の良さや誇り、山形の暮らしの中にある「幸せ」などについて考えるきっかけづくりを目的に「やまがた×幸せ」シンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、画家・壁画師として活躍されている、小林舞香さんによる講演や、山形の魅力を県内外に発信しているゲストスピーカーによるトークセッションを行いました。



## 講演会

GUEST SPEAKER 講師

画家・壁画師

## 小林 舞香 さん

### Profile

1986年東京都生まれ。2010年に画家として活動を始める。山形出身の知人との縁で、2020年に山形市七日町の店舗シャッターに壁画を描くプロジェクトに参画する。その後も、蔵王温泉に滞在して創作活動を続けるなかで、山形の自然、食、温泉、人々の温かさに魅了され、2021年4月に山形へ移住。活動は壁画制作のほか、舞台美術、企業との商品コラボレーション、音楽アーティストへの作品提供など多岐に渡る。



# 山形に暮らし、仲間と築く幸せ

## 友達はいない、 でも仲間がいる

私は生まれてから人生のほとんどを東京で過ごしました。その間、フィリピンで半年、イギリスで2年暮らした時期もあります。山形に移り住み、今年で4年になります。

山形で暮らすなかで幸せに感じることに。その話につなぐために「友達不要論」を提起したいと思います。私には友だちがいません(笑)。と言っても、ひとりぼっちというわけではなく、極力、人間関係を整理しながら生きてきたと理解してください。山形に移住したときは「東京に会いたくない人はいないの?」「東京に戻りたくない人はいないの?」と、よく聞かれました。でも、もともと都会に根を張るように生きてきたわけでもなく、人が恋しいという感情に縛られることはなかったように思います。「友達不要論」と言っても、人はひとりで生きていくことはできません。友だちがいない代わりに、私には多くの仲間がいます。「友だち」は日常を共有し、楽しい時間を一緒に過ごす存在。そして、共通の目標に向かって成長し合うのが「仲間」。国内外で活動するなかで、私は仲間との関係性を大切にしながら、幸せを築いてきました。

## 自分らしい選択が、 山形での幸せな暮らしに

山形県は、そこで暮らす人が活躍

することをすごく喜び、応援しようという意識が高い土地柄だと感じます。東京に住んでいた時は、例えばニューヨークで個展を開いたとしても、その成功体験は私だけのものであって、周りの人と喜び合うような環境ではありませんでした。比べて、みんなが支え合って生きている山形県は、仲間同士で高め合うことのできる魅力ある地域だと実感しています。私はこれまで北海道から九州までの20か所で壁画を制作し、絵を残してきました。壁画が完成するまでの約2週間をその町で過ごす、地域の特性を肌で感じるができます。初めて山形で絵を描いた時は差し入れをしてくれたり、メディアから取材を受けることも。寒い時期だったので、七輪を持参でさつま芋を焼いてごちそうしてくれる人もいました。こうしたおもてなしを他県で受けることがなかったので、驚くと同時に、温かい人間性に惹かれました。当時はコロナ禍。イベントもできなくなって仲間と集まる機会が減り、これまで個人主義的に生きてきた私にとっては一層孤独を感じる期間でした。そうした思いと山形への思いとが重なり、移住を決めました。今は、山形県という大きなチームの一員として活動しています。地域全体が私にとって大きな仲間です。先に提起した「友達不要論」というのは「友達を持つな」ということで

はなく、自分自身の考えを大事にしてほしいということ。今、私が山形で幸せに暮らすことができているのも、自分らしい選択をした結果だと思っています。

## 課題をプラス思考にシフト、 山形の未来へつなぐ

多くの地方において人口減少は大きな課題です。でも、逆に「人が少なくなっていくことは悪くない」という考えにシフトしていくことも必要ではないでしょうか。集客しないと成り立たないビジネスも、今はオンラインを使うことで解決できます。企画がもしろければ、自然と人は集まってきます。

進学や就職のために都会へ出ていく若い人たちも多くなります。都会に出ていくことを「若い人たちがいなくなる」というマイナスな部分だけとしてみるのではなく、都会の荒波に揉まれ、寂しい思いや辛いことを経験することで、「生まれ育った山形を見つめ直す機会を得られる」という発想に変えることもできます。地元の良いさを心から感じられるようになれば、その思いは山形の未来へと繋がっていくのではと思います。

# ～山形で暮らす幸せについて語るトークセッション～



山形県住みます芸人  
ソラシド

## 本坊 元児 さん

### ★山形で感じた幸せ

今住んでいる町内会の旅行で朝日町にりんご狩りに行きました。りんご狩りの後に参加した輪投げ大会で2位に。でも、その賞品が自分もたくさん育てている大根という…。3位のキャベツと交換してもらったときに幸せを感じました(笑)

### ★幸せを感じる私のおすすめ!

友達にモンテディオ山形の大ファンがいて、一緒に連れて行ってもらっています。みんなと一丸になって応援するのは楽しいし、スタジアムグルメもおいしい! サポーターにも県民性があらわれているように思いますね。



山形県住みます芸人  
ソラシド

## 水口 靖一郎 さん

### ★山形で感じた幸せ

山形に来て幸せを感じたのは、番組がきっかけでけん玉に出合ったこと。実際にやってみると奥が深く、のめり込んでしまいました。検定のときは初舞台ぐらいの緊張感があります。県ごとの総合点で順位を決めるワールドカップでは、山形がダントツの1位という結果に。みんなで成功を喜びあえたときに忘れられません。

### ★幸せを感じる私のおすすめ!

山形のぶどうです。特に南陽産のぶどうに魅せられ、毎年買いに行くお店もできました。知らない種類が山ほどあって、どれもおいしい。おすすめはキングデラウェア。まさかぶどうを待ち遠しく思うなんて、山形に来るまで夢にも思わなかったです。



### ★(ソラシドおふたりへ) 山形でどのように暮らしていきたい?

県内いたるところへロケに行かせていただいています。まだまだ知らない地域があります。いつも驚きがあり、もっと知りたいという探求心も。がんばっている若い人の姿を目にする度に“自分たちも負けれない”と、刺激をもらっています。

ANA SHONAI BLUE Ambassador

## 佐藤 菜々子 さん



### ★山形で感じた幸せ

今年も山形県産の新米を味わっていて、特につや姫のおいしさに何杯もおかわりするほど。山形の食の底力を感じています。

庄内に住んでからは、芋煮も小さい頃から馴染みのある内陸風と庄内風の両方を作るようになりました。

感動を味わえる山形の食べ物に、幸せをもらっています。

### ★幸せを感じる私のおすすめ!

おすすめは飛島。海がきれいで、ゆっくりとした時間の流れを感じることができる場所です。山形を舞台にした釣りの漫画アプリ(山形を舞台にしたバードウォッチング漫画。「しあわせ鳥見んぐ」/芳文社)の影響もあってか、私が訪れたときは観光客で賑わっていました。のんびり散策したり、アジ釣りを楽しんだり。夜の星空も最高です。

庄内は言わずと知れた酒どころ。地元の居酒屋で、季節によって変わるお酒を追いかける楽しみも。常連の方からいろんなことを教えてもらったり、旅行者におすすめスポットを教えてあげることもあります。



### ★山形でどのように暮らしていきたい?

山形で生まれ育ちましたが、知らないことがたくさんあり、これからも毎シーズンの情報を集めていきたいです。そして仕事を通して、これまで関心のなかった人に山形の良さを伝えたり、逆に各地の情報を持ってきたりと、“かけ橋”となる活動ができたらと思っています。

画家・壁画師

## 小林 舞香 さん



### ★山形で感じた幸せ

地域に根付くアートを制作し続けられることに幸せを感じています。特に「道の駅やまがた蔵王」の正面に壁画を描かせていただいた際は、アートを通じて地域に貢献できる喜びを強く実感しました。街の中には誰が描いたのか知られていない絵があふれています。地域に残っていく作品なので、私は“自分が描きました!”と伝えるようにしています。現在2歳になる息子が大きくなったとき「これ、ママが描いたんだよ」と言えるように活動を続けていきたいです。

### ★幸せを感じる私のおすすめ!

山形に移住して、地方には「程良い人口密度」という大きな魅力があると感じました。人が多すぎる煩わしさがなく、必要なサービスをゆったりと受けられ、心の余裕や豊かさのある暮らしができます。

東京に住んでいた頃は、雑踏の中でベビーカーを一生懸命押しているおかあさんの姿などを見るにつけ、子どもを持ちたいとか子育てしたいという気持ちを持てずにいました。でも、山形での穏やかな環境や地域の人々とのつながりの中で、初めて子育てに対して前向きな気持ちになれたんです。自然豊かな心地よい生活環境は、家族との時間を大切にする意識や新しい幸せの形を教えてくださいました。過疎化は確かに深刻な問題ですが、都市と地方の役割を見直し、地方ならではの良さを活かした社会にシフトしていくのも一つの方向性ではないかと思っています。



### ★山形でどのように暮らしていきたい?

引き続き、県内に多くのアートを残しつつ、世界にもどんどん発信していきたいです。いつかは“あの有名な小林さんが描いた山形の絵”として、県民のみなさんが誇れるような存在になれたらいいですね。山形を想起させるようなアートを創り出し、自分自身の絵が観光の一つとなることで地域に貢献できればと思っています。